

3-1-1

# 農林業

## ① 現況と課題

- ・農業従事者の高齢化や後継者不足など農業の生産基盤が弱まっているため、担い手の育成や農地の有効利用など、地域の特性を活かした取組を推進していく必要があります。
- ・食の安全性に対し、消費者の関心が高まっていることから、市内で生産された安全な農産物を消費者に提供していくことが求められています。
- ・農産物を有害鳥獣の被害から守るため、集落や関係団体と連携し、被害防止のための広範囲な対策を推進していく必要があります。
- ・木材需要の低迷、林業経費の高騰など林業の生産基盤が弱まっているため、関係団体との連携を図り、地域の特性を活かした取組を推進していく必要があります。

## ② 基本目標

農林地の保全と有効利用を進めるとともに、  
意欲ある担い手が育つ魅力ある農林業を目指します。

## ③ 目標値

数値系指標	現況	目標値	
	平成21年度	平成27年度	平成32年度
耕作放棄地*調査による耕作放棄地面積	33.6ha	27.3ha	21.0ha
間伐促進事業の実施面積	2.3ha	5ha	10ha

意識系指標(市民満足度)	現況	目標値	
	平成21年度	平成27年度	平成32年度
農林水産業の振興に満足している市民の割合	28%	39%	50%

## ④ 基本目標を実現するための施策

項 目	内 容
農地の有効利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来にわたって適切な農業利用を図るため、担い手などへの集積、新規参入の促進などの支援を推進します。</li> <li>・耕作放棄地については、営農集団などの担い手に利用集積を促進し、耕作放棄地の解消を推進します。</li> </ul>
地域資源の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他産業との連携を密にし、農産物の地産地消を推進します。</li> <li>・関係機関と連携し、都市と農村の体験交流の活性化を図ります。</li> </ul>
有害鳥獣対策の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域が一体となった被害防止対策と、捕獲活動による被害拡大の防止を図ります。</li> <li>・近隣町と有害鳥獣防止対策に対する制度の統一に努めます。</li> </ul>
森林の荒廃対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種補助事業を活用し民間林、市営造林の整備を推進します。</li> <li>・伊豆地域森林計画で定める森林整備の目標や基本方針を踏まえ、重視すべき森林の機能に応じた整備を推進します。</li> </ul>
経営体制の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公的融資や助成事業を活用して、経営の支援や担い手の確保に努めます。</li> <li>・意欲的な農業の担い手を広く育成するとともに集落営農<sup>*</sup>を促進し、営農体制の強化に努めます。</li> </ul>
農林道の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農林業者が安心して作業できるよう適切な維持管理を図ります。</li> </ul>

【用語解説】 \*「耕作放棄地」：農作物が過去1年以上作付けされず、農家が今後数年の内に作付けする予定が無い田畑や果樹園。

\*「集落営農」： 集落を構成する農家のうち、概ね過半の農家が参加し、農業生産過程における共同化、統一化に関する合意のもとに実施される生産活動。

3-1-2

# 水産業

## ① 現況と課題

- ・漁業就業者の高齢化や後継者不足など漁業の生産基盤が弱まっているため、担い手の育成や水産資源の活用など、地域の特性を活かした取組を推進していく必要があります。
- ・磯焼けが発生し水産物の水揚げが減少していることから、磯焼け対策や新たな漁礁築造、種苗の放流など水産資源の保護、育成が求められています。
- ・漁業の生産基盤確立のため、漁港漁場の整備や漁協機能の集約化を推進していく必要があります。
- ・他産業との連携により、漁村のもつ多面的機能による地域の発展に取り組む必要があります。

## ② 基本目標

水産資源の育成と活用を進めるとともに、  
意欲ある担い手が育つ魅力ある水産業を目指します。

## ③ 目標値

数値系指標		現況	目標値	
		平成21年度	平成27年度	平成32年度
水揚高	数量	3,554t	3,590t	3,626t
	金額	3,221,728千円	3,253,945千円	3,286,484千円

意識系指標(市民満足度)	現況	目標値	
	平成21年度	平成27年度	平成32年度
農林水産業の振興に満足している市民の割合	28%	39%	50%

## ④ 基本目標を実現するための施策

項 目	内 容
漁業環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水産物の安定的な供給、災害時の救援物資の運搬を支えるために安全で安心な漁港の整備を推進します。</li> <li>・水産資源の保全、創造のための漁場の整備を推進します。</li> </ul>
安全で良質な水産物の供給	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食の安全が求められるなか、水産物の衛生管理の向上に努めます。</li> </ul>
水産資源の保護、育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・種苗放流や乱獲の防止により、資源維持、拡大に努め持続可能な漁業を推進します。</li> </ul>
経営体制の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者の経営基盤の強化を図ります。</li> <li>・漁業就業者の新規参入を容易にするために制度を改革し、担い手の育成を図ります。</li> </ul>
地域資源の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他産業との連携を密にし、水産物の地産地消を推進します。</li> <li>・金目鯛や伊勢海老のブランド化を図ります。</li> </ul>

3-1-3

# 観光

## ① 現況と課題

- ・観光地としての知名度は高いものの、景気の低迷による消費動向の変化や国内外に及ぶ総観光地化の波などにより、観光交流人口は年々減少傾向にあり、新たな観光誘客への取組が求められています。
- ・価値観やニーズの多様化に伴い、旅行スタイルも個々のニーズに合わせた「参加・体験型」観光へと移行しつつあり、下田の歴史や自然を活かした観光ソフトの一層の開発や普及が求められています。
- ・本市の管理する観光施設は、老朽化が顕著になっており、管理方法の見直しや、計画的な改修・整備が求められています。
- ・伊豆観光圏整備計画に基づき、圏域内市町で連携した滞在型観光への取組が求められています。
- ・観光案内標識の整備と多言語・ピクトグラム<sup>\*</sup>化など、観光サインの統一が求められています。
- ・観光立国の推進とあわせ、新たな需要の拡大が期待される外国人観光客の誘客に向けた受入システムの整備が求められています。

## ② 基本目標

自然や歴史をはじめとする下田の魅力を活かし、  
多くの人が楽しめるまちを目指します。

## ③ 目標値

数値系指標		現況	目標値	
		平成21年度	平成27年度	平成32年度
観光 交流客数	観光レクリエーション客数	2,077,177人	2,100,000人	2,200,000人
	観光宿泊客数	866,118人	900,000人	1,000,000人
外国人宿泊者数		2,692人	6,400人	12,200人

意識系指標(市民満足度)	現況	目標値	
	平成21年度	平成27年度	平成32年度
観光業の振興に満足している市民の割合	22%	36%	50%
産業間の相互の連携に満足している市民の割合	14%	32%	50%

#### ④ 基本目標を実現するための施策

項 目	内 容
観光ソフトの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水仙まつりやあじさい祭などの既存イベントのリニューアルや新しいイベントの構築を行い、下田のまちの新たな魅力を発信します。</li> <li>・多様化する観光ニーズに応じていくため、地場食材の活用や農山漁業体験など、他産業との連携を図ります。</li> <li>・参加型の体験プログラムや着地型旅行商品<sup>*</sup>の開発を促進し、観光客の滞在時間の延長を図ります。</li> </ul>
おもてなしの心の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪れる人を温かく迎えるために市民や観光関係者の「おもてなしの心」を育成します。</li> <li>・市民一人ひとりが下田の持つ歴史や自然・文化の価値を認識できるよう、地元への情報提供の機会を増やします。</li> </ul>
訪れやすいまちづくりの整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人観光客や障害者、高齢者をはじめ、すべての人に対応したハード、ソフトの整備を行います。</li> <li>・海水浴場の安全確保と健全化に努めます。</li> <li>・本市の管理する観光施設を計画的に改修し、利便性や安全性の確保に努めます。</li> <li>・道の駅開国下田みなどの整備を進め、利用率の向上に努めます。</li> </ul>
新たな誘客への取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様化するニーズに対応した新たな観光のあり方を検討し、観光施策を総合的かつ計画的に推進するため、市民や関係機関とともに市が目指すべき観光の指針となる観光基本計画を策定します。</li> <li>・インターネットや携帯電話端末などのメディアを最大限に活用し、多言語化による情報発信を進めます。</li> <li>・伊豆地域の他の市町との連携を強化し、情報発信や観光ソフト開発の構築に努めます。</li> <li>・新たな誘客促進地域を開拓するため、高速海上航路の拡充を図ります。</li> <li>・観光から定住希望まで、幅広い交流居住に対応できる受入体制を構築し、下田の魅力を発信します。</li> </ul>

【用語解説】 \*「ピクトグラム」： 絵文字、絵言葉のことで、表現対象である事物や情報から視覚イメージを抽出、抽象化し、文字以外のシンプルな図記号によって表したもの。言語の制約を受けない「視覚言語」として、駅や空港などの公共空間を中心に広く普及している。

\*「着地型旅行商品」： 地元の企業などが主催する現地発着の旅行。従来の首都圏などの出発地にある旅行会社が企画する「発地型旅行」のいわば反対語。

3-1-4

# 商工業

## ① 現況と課題

- ・消費者ニーズの多様化や後継者不足などを背景とした商店の減少により、中心市街地の活力が弱まっているため、関係機関と連携し、活性化に向けた取組を推進していく必要があります。
- ・本市の自然などの資源や各種技能、技術を活かした地場産業の育成を図り、あわせて観光など他産業との連携を推進していく必要があります。
- ・中小企業の経営基盤の強化を図るため、融資制度の充実や新しい技術の導入などに関する情報提供を推進していく必要があります。
- ・地域に眠る能力や資源の活用を図るため、コミュニティビジネス<sup>\*</sup>の理解と普及の取組が求められています。

## ② 基本目標

既存の中小企業の振興とともに、観光など他産業と連携した取組を行い、活力のあるまちを目指します。

## ③ 目標値

数値系指標		現況	目標値	
		平成21年度	平成27年度	平成32年度
商工会議所の登録会員数		1,055人	1,055人	1,055人
工業	事業所数	23事業所 (平成20年度)	23事業所	23事業所
	従業者数	334人 (平成20年度)	337人	340人
	製造品出荷額	4,289,920千円 (平成20年度)	4,332,820千円	4,376,150千円

意識系指標(市民満足度)		現況	目標値	
		平成21年度	平成27年度	平成32年度
商工業の振興に満足している市民の割合		14%	32%	50%
インターネットなど情報通信環境の整備に満足している市民の割合		38%	48%	58%

## ④ 基本目標を実現するための施策

項 目	内 容
商工業の振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地場産品の開発を推進します。</li> <li>・各種技能、技術の伝承を図るために、伝統工芸の育成を推進します。</li> <li>・各種制度を活用し、中小企業の育成と振興を図ります。</li> </ul>
中小企業の安定経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種制度を活用し、中小企業の経営の安定化を図ります。</li> </ul>
情報化の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商工業者のホームページの立ち上げなど、IT活動事業を推進します。</li> <li>・光ファイバなどの情報基盤整備のために官民一体となって取り組みます。</li> </ul>
市街地の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き店舗対策、商店街の集積整備を推進します。</li> <li>・中心市街地のにぎわいを取り戻し、地域の活性化を図るため、まちづくりと一体となった商業活動を推進します。</li> <li>・まちづくり団体などの関係団体と連携して中心市街地の活性化を推進します。</li> </ul>

【用語解説】 \*「コミュニティビジネス」：市民が主体となって、地域が抱える課題を地域資源を活かしながらビジネス的な手法によって解決しようとする事業



3-1-5

## 雇用・勤労者対策

### ① 現況と課題

- ・正社員の削減、パートの増加など、勤労者の雇用状況は不安定であるため、安定した雇用の場の創出が求められています。
- ・若者の地元企業への定着を促進するため、関係機関との連携を強化し、雇用の場の創出が求められています。
- ・UJIターンの促進を図るために、雇用機会の確保とインターネットなどを活用した情報発信の推進が求められています。

### ② 基本目標

多くの雇用の場の確保と就労の安定に努め、  
安心して働くことのできるまちを目指します。

### ③ 目標値

数値系指標	現況	目標値	
	平成21年度	平成27年度	平成32年度
有効求人倍率	0.89	0.98	1.08

意識系指標(市民満足度)	現況	目標値	
	平成21年度	平成27年度	平成32年度
働きやすい環境の整備に満足している市民の割合	7%	29%	50%

## ④ 基本目標を実現するための施策

項 目	内 容
雇用環境の整備	<ul style="list-style-type: none"><li>・関係機関と連携し、雇用環境の向上を図ります。</li><li>・勤労者のための教育資金利子補給などの支援を推進します。</li></ul>
福利厚生の充実	<ul style="list-style-type: none"><li>・事業者に対し、従業員の労働時間の短縮や健康管理、安全衛生の徹底を要請します。</li></ul>
企業誘致	<ul style="list-style-type: none"><li>・雇用機会の拡大や地元経済の活性化を目指し、企業や研究施設の誘致に関する調査研究を行います。</li><li>・ファルマバレープロジェクト* 推進に寄与する健康、医療関係企業の誘致、育成について調査研究を行います。</li></ul>

【用語解説】 \*「ファルマバレープロジェクト」：静岡県が進めるプロジェクト。県東部地域を中心に医療産業からウェルネスまでに広がる健康関連産業の振興や集積を図るもの。

3-2-1

# 道路

## ① 現況と課題

- ・主要幹線道路は市街地中心部に集中する形態となっているため、行楽シーズンを中心とし交通渋滞が発生し、市民生活に影響を与えています。
- ・中心市街地は「あるきたくなるまち」「すみたくなるまち」を目指し、都市計画道路の見直しが必要となっています。
- ・市街地の観光資源や下田港を中心とした歩行者ネットワークの整備が必要となっています。
- ・伊豆縦貫自動車道建設を踏まえた道路体系の確立が必要となってきます。
- ・観光地や富士箱根伊豆国立公園として良好な道路景観が求められています。

## ② 基本目標

自然環境や景観を活かしながら、  
市内外へ安全で円滑な移動ができる道路網を整備します。

## ③ 目標値

数値系指標	現況	目標値	
	平成21年度	平成27年度	平成32年度
都市計画道路整備率 (整備済総延長/都市計画決定総延長)	58%	62%	64%

意識系指標(市民満足度)	現況	目標値	
	平成21年度	平成27年度	平成32年度
道路網の整備に満足している市民の割合	34%	44%	54%

## ④ 基本目標を実現するための施策

項 目	内 容
幹線道路の整備	<ul style="list-style-type: none"><li>・災害や地域発展の核となる伊豆縦貫自動車道の早期完成を促進します。</li><li>・高規格道路の開通に対応した幹線道路の整備を促進します。</li></ul>
都市計画道路の整備	<ul style="list-style-type: none"><li>・都市計画道路(中島―大浦線、中原―岩下線)を見直します。</li></ul>
生活道路の整備	<ul style="list-style-type: none"><li>・通勤・通学者の安全な歩行空間を整備します。</li><li>・橋梁の長寿命化修繕を行います。</li></ul>
歩行者ネットワークの整備	<ul style="list-style-type: none"><li>・自然や街並み景観などを活かした、遊歩道などの整備に努めます。</li><li>・市街地の観光資源や下田港を中心とした歩行者ネットワークの整備に努めます。</li></ul>

3-2-2

# 港湾

## ① 現況と課題

- ・下田港は地方港湾として、避難港、漁業基地、物流機能、海洋レジャー基地として活用されていますが、利用形態の多様化からすべての機能を補うには限界があり、施設の整備や利用のすみ分けが求められています。
- ・まどが浜海遊公園などを活用した更なるにぎわいと交流の創出が課題となります。
- ・国際カジキ釣り大会、ヨットレースなど経済波及効果の高いマリニイベントを市民レベルで応援する機運が盛り上がっています。

## ② 基本目標

港のもつ多くの機能を活かし、  
人の集まるにぎわいの場を整備します。

## ③ 目標値

数値系指標		現況	目標値	
		平成21年度	平成27年度	平成32年度
港湾統計の指標	入港船舶 隻数	1,439隻	1,600隻	1,600隻
	入港船舶 総トン数	304,219t	302,000t	302,000t
	乗降人数	14,018人	22,000人	22,000人
まどが浜海遊公園利用者数		298,800人	300,000人	300,000人

## ④ 基本目標を実現するための施策

項 目	内 容
港湾機能の整備	<ul style="list-style-type: none"><li>・避難港機能の充実を図るため、外防波堤の建設を促進します。</li><li>・漁業基地、海洋レジャー基地としての基盤整備を進めます。</li></ul>
にぎわいの創出	<ul style="list-style-type: none"><li>・人と海がふれあえる下田港を目指し、民間と行政が連携したマリンイベントを開催します。</li><li>・まどが浜海遊公園などの活用による更なるにぎわいと交流の創出を推進します。</li></ul>
港湾周辺の計画的・効率的な土地利用の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>・武方浜地区の旧下田ドック跡地については、民間開発を再開発地区計画に基づき誘導・指導します。</li></ul>

## 公共交通機関

### ① 現況と課題

- ・バス、鉄道、タクシーなどの公共交通機関は、市民の生活を支えるとともに、来遊者の移動手段として大きな役割を果たしており、公共交通体系の充実が求められています。
- ・バス事業者の経営は、輸送人員の減少により特に厳しい状況となっており、不採算バス路線の増加に伴い、生活バス路線の確保が課題となっています。
- ・半島先端の港町として海上旅客航路の整備は重要な課題となっています。

### ② 基本目標

市民や来遊者が利用しやすい公共交通体系を維持・構築します。

### ③ 目標値

数値系指標		現況	目標値	
		平成21年度	平成27年度	平成32年度
下田駅発着・経由のバス乗降者数	定期券利用者	202,857人	201,000人	200,000人
	定期券利用者以外	733,727人	734,000人	734,000人
伊豆急線市内3駅乗降者数		1,409,216人	1,410,000人	1,410,000人
神津島航路乗降者数		10,246人	11,000人	11,000人

意識系指標(市民満足度)	現況	目標値	
	平成21年度	平成27年度	平成32年度
鉄道・バス・海上交通など公共交通機関の充実に満足している市民の割合	30%	40%	50%

## ④ 基本目標を実現するための施策

項 目	内 容
公共交通体系の構築	・通勤、通学、通院などの市民生活の利便性や来遊者の立場も踏まえた公共交通体系を構築します。
安全な鉄道の確保	・鉄道施設総合安全対策事業により恒久的に安全性を確保できる鉄道の整備を推進します。
海上旅客航路の整備	・海上旅客航路の整備について調査研究を推進します。
下田駅前広場の整備	・玄関口としての景観や利便性向上のための整備を推進します。